

六と五一と合二の六列は終る
 六の割り
 六六二年六列は終る
 六の割りの六二終る
 五五に引くと知るべし

二と五一と合二の二列

二六十二列は終る

六と五一と合二の六列

六六三十一

六の割り

まのりぐら

● 曲尺のよりまぐりたる知の曲尺人あらうるはれをかくふ。守と

写すの知尺紙あて守あまのの儀のたてて所はじつは



あまのり

いひずともやとるふ曲尺とて木を割

ふる尺とじて改る是も三度と尺の知あて六六あはれはる物

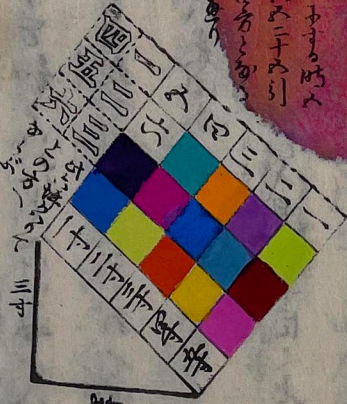
是とじて改るはる物はる物はる物はる物はる物はる物



二寸
 目十九寸
 目九寸
 目六寸
 目三寸



平方あはる時
 三六六六六六
 六六六六六六
 六六六六六六
 六六六六六六



三三三三三三
 三三三三三三
 三三三三三三
 三三三三三三



子午 寅申 辰戌
丑未 卯酉 巳亥

の秋 火 土 木

△先指ふをとき

ひつこと空あり

中指よふはやく

のついでに

唯人の生刻と人の性ふけりたる所の生刻とをい
 味少く是あり。亦といはれも今あて刻まれば。木の用と
 る。金と火を刻まざれば。今其用いぬがじ。ば理は推時を
 男の女と刻まらば。女より男と刻まらば。増えたり。是若し
 細説。尋常の。示教の著し。を。林。玉。嚴。堂
 小属。を。に。刊。の。え
 ●指頭小二十景の性と操
 凡指頭小と操と教ある中。人の業とて何の年成
 とも。知。又何の干支と。支干の教。合せて何の性あり。依
 知。とは。世俗。一般。ふ。する。と。も。れ。何。の。金。性。何。の。火。性。と。知
 べ。さ。ら。も。う。さ。あ。及。び。し。ら。く。り。も。子。支。し。て。な。よ。出。ま。る。さ。

申の十国已より始まる。しが括の計より括小ま寅申巳と
 賞星の海之又括小本大令と賞星一かく賞星六うん
 覚る不及の星大性也午と括中括也寅う即辰巳午と
 胃目より臨の運

大括也て八つめ九の運
 同九曜星操中り



来くつり星也て吉也と留入冬も星也として悪星は除
 天学小絶て分ると九曜本曜大曜去曜金曜羅喉星計都星
 日曜月曜是は云い過羅計とを云大凶星にて除の祭と云はと



けりりす羅喉星よりたの方へ
 唯小年の殺す括小年の人
 年の星と見んか入羅去水金日
 大計月本羅と十午寅と起ハ

火曜星小大凶星の業也もけん也自然吉也
 凶土と水半吉金曜星凶也天学小羅喉計都八白

春雪解話

荒井堯氏先生著

全二冊

此書は方位ノ原委ヲ究メ本命的熱麒麟星ノ偽造タルヲ
辨シ鬼門ノ妙論凶方出行ノ正論ヲ述テ世俗ノ惑ヲ解シ
メトス且曆中ノ八将神ヨリ中段下段ノ神熱ヲ考辨シテ
和漢兩説異同アルヲ著シ十死受死等ノ凶日七日ニ
ヨリテ吉日タルヲ論シ曆ニ洩タル天願自ハ最第一ノ吉日
タルニヨリ其值日ヲ撰出シ總ニ曆中ノ一ヲ論シタル
日用ノ書ニテ曆ヲ用ルトキ此書ヲ合讀セバ大ニ功益アルノ
良書ナリ

横山町三丁目 和泉屋金石衛門棹

入近野元主

農家潤寶記ニ編目錄

- 民家の又百姓と訓する事
- 婚姻の式あり
- 結婚目錄書中
- 弟代目縁澤方方
- 夫婦登仕方
- 蟹斗の包方
- 相生お魁の包方
- 指しお世果の性操
- 毎十千十二五
- 指しお十二運の操中
- 指しお毎年星の吉凶操
- 土用十八九の説
- 年中日の出没星経
- 潮汐の盈虚月の出入無誤
- 席小出ころの日記
- 朱筆堂の事
- 何月宜く大観と
- 農家用字
- 書状手紙の包方